

令和6年度 学校経営報告

都立青山高等学校長 永森比人美

1 4年度の取組目標と方策

(1) 学校経営

ア 組織

(ア) 教育職員

進学実績の向上に資する深い学びに繋がる学習指導を展開するとともに全教員が一体となって学校経営に当たる。

- ・Webアンケート、学校ホームページ、公式X等を活用し、エビデンスを重視した学校経営
- ・学習から生活、特別活動等までにおける生徒・保護者に係る情報の迅速な共有
- ・自己申告に学校経営計画の具現化のための目標設定
- ・体罰や個人情報漏えい等の服部事故ゼロ
- ・企画調整会議の活性化、各教科との連携が必要な局面で企画調整会議に教科主任が参加・担当部署に関わらず、学校行事等の運営への積極的協力
- ・校内研修、進路職員会議等による教育課題の共有化
- ・進学指導重点校としての探究学習の充実
- ・ICTによる業務の効率化（学校ポータルサイトによる保護者への迅速な情報提供と共有）による職員の負担軽減と在校時間の可視化によるライフワークバランスの重視

(イ) 行政職員

課題ごとに、管理職と一体となってPT方式によりその解決に当たる。

- ・固定観念や前例にとらわれない柔軟な発想に基づく学校経営を補佐する。
- ・適正な予算編成・執行と財務管理の徹底
- ・施設・設備の安全維持に要する業務の着実な推進
- ・進路部、広報部、生徒保健部の多様な業務を財務面から支援
- ・ICTによる業務の効率化（学校ポータルサイトによる保護者等への迅速な情報提供と共有、紙資源の節約による印刷労力と経費の削減）による職員の負担軽減とライフワークバランスの重視

イ 施設・設備組織

施設・設備の安全確認・点検等を定期的に行うとともに、改修改善を要する施設・設備については増改修要望を利用して学校経営支援センター、都立学校教育部と連携して安全な教育環境の維持改善を図る。

- ・窓枠改修
- ・生徒昇降口等の天井改修
- ・テニスコートの改修
- ・蛍光灯の安定器交換
- ・トイレ換気扇の修繕
- ・全教室個別空調化に向けた実施計画の策定（増改修要望）
- ・グラウンドの人工芝生化と外構整備
- ・自習室LED化工事

(2) 学習指導・進路指導	
ア 学習指導等	「作問力は指導力」をスローガンに、教員の専門性の向上と、国公立大学進学に対応した学習指導の展開を目指す。 ・大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・管理職が指定した教員の授業見学の実施、指導教諭による授業公開の活用、特別講習等の継続 ・英語教育研究推進校としての取組、一人1台端末等を活用した新たな学習指導 ・青高の100冊の改定と不読率の低減、金融教育等の喫緊の教育課題に対応した学習指導 ・Tokyo Global Gateway（英語村）の活用
イ 進路指導	「進学指導」重点校としての役割を教職員が認識し、将来の社会貢献を見据えた指導をとおして、真に学びたい、学ぶべきことを発見させ、その学びを深めるために真に適した分野（学部学科）と大学を志望するよう「進学指導」を行っていく。進路部と各学年が連携して計画的に進路指導を行うとともに、生徒一人一人の実態を教職員全員で把握し、各教科等での適切な指導を継続する。 ・共通テスト及び二次試験を想定した校内学力テスト・定期考査の実施と分析 ・進路職員会議、ケース会議、進路研修会等を定期的に開催 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・生徒の志を育むため、各学年等を対象とした文化講演等を実施 ・望ましい勤労観・職業観を育むキャリア教育の実施
(3) 生徒の健全育成と心身の健康	
ア 健全育成	教育活動の全般をとおして、公共心や道徳心、規範意識や社会貢献の意識を育むとともに、他者を思い遣る人間性を醸成する。 ・あいさつ指導等の実施 ・美化活動等の実施 ・ヤクルト球団や熊野神社等の地域行事を通して、地域貢献と社会性の涵養を実現 ・校長による人材育成の一環として、いじめ防止対策委員会の規模拡大と定例実施 ・自主自律の精神と民主主義を尊ぶ生徒会活動の指導 ・連携協定に基づく港区立青山小学校、同立青山中学校、都立青山特別支援学校との交流の継続 ・自習室の管理 - 外部委託を活用し生徒のニーズに応える。
イ 心身の健康	学校保健計画に基づき、生徒の心身の健康づくりに資する取組を推進するとともに、個々の生徒に応じた指導・支援を行う。 ・特別支援教育推進委員会の規模拡大と定例実施 ・カウンセリングや相談体制の強化 ・合理的配慮や支援を必要とする生徒への支援 ・スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを活用した相談体制の強化 ・例年深刻化する摂食障害のある生徒のケアと保護者の啓発
(4) 特別活動	
ア 行事等	学校行事のねらいを達成し、文化・芸術・運動等に生涯にわたり親しむ素地を培う。また、ホームルーム活動のねらいを達成するために、年間指導計画を立てる。

・進路実現に結びつく立志のための文化講演の実施 ・文化・芸術に親しむ行事の実施 ・防災に係る専門的な知識を身に付けられる行事の実施 ・体育活動に親しむ行事の実施 ・読書活動に親しむ行事の実施 ・進路実現に向けた意識の高揚 ・Tokyo Global Gateway（英語村）を活用した英語体験学習の検討
イ 部活動 部活動への加入を奨励し、文化活動や体育活動をとおして、生涯にわたり健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。 ・部活動加入率 95%以上 ・公的発表会等や外部指導員等の配置に必要な予算措置 ・事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応の徹底 ・顧問教諭や関係教諭、スクールカウンセラー等による面談等の実施 ・地域の小中学校、特別支援学校との部活動をとおしての生徒同士の交流活動の展開 ・難関国立大学との部活動をとおしての交流と進路に関する懇談の復活実施
(5) 地域貢献
・地域の特別支援学校との音楽をとおしての交流活動の展開 ・祭礼等の地域行事への参加や地域の清掃活動などの実施 ・地域や地域の企業、関係機関と連携した防災訓練の復活実施 ・港区立青山小学校・港区立青山中学校・東京都立青山特別支援学校との連携 ・ヤクルト球団、日本青年館等の近隣諸団体との連携の強化
(6) 広報活動
・行事や部活動等の教育活動の情報発信の活発化 ・学校説明会、学校見学会、放課後の個別相談会、入試問題解説会等を年 8 回以上開催 ・近隣中学校等への出前広報活動の復活実施 ・塾等への出前広報活動 ・X による情報発信を年 500 回、フォロワー累計 5,000 達成 ・YouTube 青高チャンネルの開設と動画による学校紹介・部活動紹介

2 成果と課題

(1) 学校経営
<成果> ア 組織 (ア) 教育職員 ・企画調整会議を中心として学校経営上の課題解決に取り組むことができた。また、教務主任主催による各教科主任との連携をとおした教育課程の再編成や管理について情報共有を円滑に行えた。 ・学校ポータルサイトの活用をとおし、生徒の出席管理等、業務縮減を実現するとともに、紙資源の大幅な節約も達成。同時に、保護者への情報伝達の迅速性・確実性が格段に向上し、P T A・保護者から評価を得た。学習から生活、特別活動、感染症予防に関する連絡をとおして、P T A・保護者と情報を共有し、迅速に課題に対応しインフルエンザによる学級閉鎖を最小限に留めることができた。 ・総合的な探究の時間については、「DX 探究部」のリーダーシップの下、教育課程に根付かせ、

1・2学年探究学習担当による継続的な教育活動へ転換を図ることができた。

(イ) 行政職員

- ・男女枠撤廃等、入学選抜業務について、教務部と連携し、課題を十分に把握した上で、迅速かつ正確な処理をすることができた。
- ・生徒の就学支援金等の受給状況、教職員の在校時間等の集計、施設設備の改善状況の三つの特命業務を、3人の主事に継続して分担させ、データを公表することにより、業務改善に直接結びつけるとともに、3人の主事の説明資料作成能力の向上を一定程度実現できた。
- ・積立金や部費等の私費の適正な管理を行うことができた。

イ 施設・設備組織

- ※文部科学省指定「DX推進校」予算の適宜適切な執行・管理を行った。
- ・進学実績の向上に資する学習環境整備等の企画提案など学校経営に参画した。
- ・積立金等の私費の適正かつ学校経営に則した執行管理を行った。
- ・副校長等と連携した、校内施設・設備の安全点検と増改修推進のための支援センター、高等学校教育課との折衝を行った。
- ・ライフワークバランスの実現に向けたテレワーク（在宅勤務）の適正な活用を行った。
- ・外苑会、後援会との連携の一層の強化を図った。

<課題>

- ア ・学校経営方針を踏まえ、教育活動の一層の成果を上げるために、進学実績向上に資する専門性の一層の向上に努める。
- ・個々の生徒に応じた学習指導や相談の展開が、一定程度できた。学校アンケートによると、ホームルーム活動の充実や教員による声掛けを求めている生徒がいる。
- イ ・プールろ過機、全熱交換器の配管など、古くなった設備の更新を要望した。
- ・グラウンド整備が進んでいないので、人工芝生化と外構整備に取り組んでいく。
 - ・感染症予防のため、水道の水栓をコック式、または、センサー式に取り換えることができるよう、教育庁への要望を継続的に行う。
 - ・トイレの悪臭の改善策として、換気扇の改修を継続要望する。

(2) 学習指導・進路指導

<成果>

ア 学習指導等

- ・年間指導計画の改善を行い、単元ごとの到達目標を設定、教科会での進捗状況の確認・調整も行った。
- ・Webアンケートを活用した生徒による授業評価を年2回実施し、その結果を公表して、教員が指導の工夫・改善を図った。
- ・校長が指名する教員の相互授業見学を年2回実施するとともに、一人1台端末の活用については、1年生から3年生までタブレットを活用して授業を受ける体制を整えることができた。
- ・デジタルサポーターの支援により、オンラインで始業式、終業式等を実施することができた。
「デジタルを活用した新しい学び研究校」として、国語と音楽の教員が先進的な取組を行い全都に披露するとともに、研究の成果をデジタルブックに掲載した。

イ 進路指導

- ・東京大学現役合格者を3名、一橋大学7名、東京科学大学3名（医学部医学科1名含む）、医学部医学科6名、難関国公立大学現役合格者を18名輩出し、学校として目標としていた30名には届かなかったが、進学指導重点校としての教育委員会の目標を達成することができた。国公立の医学部医学科の現役合格者を6年連続で出せたことは大きな成果である。また、卒業生総数に占める約4割（103名）が現役で国公立大学に合格した。
- ・難関私大は延べ233名、GMARCH延べ373名が現役で合格した。
- ・進路全体計画を策定し、校内学力テスト・外部模試・講習補習や面談等着実な実施を図った。特に、校内学力テストや定期考査においては、大学入学共通テストを見据えた新傾向の問題、思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題、初見の問題を、主要教科で実現することができた。同時に、教員の指導力の向上（作問力は指導力）につなげることができた。また、77期生の「塾や予備校を頼らず学校生活・学校の授業だけで進路実現を図る」を3年生まで継続し（昨年度に比べると予備校の利用者は3年生になって増えた）、国公立二次試験が終わっても個別の添削指導を丁寧に行う教員の姿が多く見られた。
- ・進路職員会議を年6回実施し、模擬試験の分析や個に応じた指導方針を確認しあった。
- ・模擬試験の結果を踏まえ、生徒の苦手とする分野を把握した指導の重点化を図るとともに、学年担任団が生徒を激励し適切な進路情報を各種集会で伝達することにより、生徒のメンタルケアを始め生徒の学習意欲を高めることができた。

<課題>

ア 学習指導等

- ・教職員が受験指導と「進学指導」の違いを全教員が十分に認識しているとは言い難い状況にある。真の進学指導重点校としての地位を固めるには、「進学指導」の意味を認識し、学校経営計画に基づいて日々実践していくようにベクトルを一方向に集中させていくことが課題である。
- ・学年ごとの指導に差が生じないよう、教科会での議論を促す工夫を継続するとともに、教科主任会の活性化を図る。
- ・文理別や必修履修・選択履修等を想定した、3年次の実際の時間割の策定に必要な調整や運用の仕方を検討していく。
- ・授業改善と個々の生徒に対応した補習・講習の一層の充実
- ・観点別評価の共通理解の促進
- ・ICT化した授業評価の結果を分析し、成果の挙がっている指導方法等を教科・学年で共有

イ 進路指導

- ・進学指導重点校としてのミッションや学校経営計画を深く理解し、教職員が同じ方向に向かって尽力できるよう、より一層進路指導部のイニシアチブが発揮できるよう、校内の体制を改善する必要がある。令和7年度も進路部に2名の主幹教諭を配置して探究学習の充実を図るとともに組織強化を目指す。
- ・進路部主導により、3年間を見通した進路指導の標準形を完成させていくことが課題である。
- ・校内学力テストの精度向上が必須であり、引き続き「作問力は指導力」をスローガンに、自校作成問題や小論文問題の作成の機会を捉え、教員の力量を高めていくことが課題である。
- ・模擬試験の合格判定のみならず校内学力テスト等をフルに活用して組織的な進路指導を行えるよう教員の専門性の向上を図る。

・合格大学別の校内学力テスト・定期考査の分析 ・長期休業期間中の講習を生徒の進路希望別の内容で実施 ・受験指導と進学指導の違いを明確に意識した生徒指導が行えるよう、教職員への校内研修の充実及び進学重点校としてブレない進学指導の方針を確立する。
(3) 生徒の健全育成と心身の健康
<成果> ・教職員から生徒への積極的な挨拶指導を徹底し、礼節指導の充実を図った。生徒の心身の健康状態、出席の状況を把握するために欠かせない、重要な指導であることを、教職員にさらに強く意識させることで、一層の成果向上を図れるものとする。 ・We b アンケートによるいじめ等に関する調査を年3回実施し、未然防止・早期発見に努め、自他の生命や人権を尊重する豊かな心や態度の育成を図ることができた。マネジメント強化事業による副校長マネジメント支援員により合理的配慮を求めた生徒への対応ができた。 ・保健室の健康指導やケアは、大きく改善し学校評価の結果もそれを反映するものとなった。怪我やメンタルケア等の主任養護教諭の迅速な対応により大きな事故に発展する事案はゼロであった。 ・産婦人科医及び健康相談員との連携により生徒相談等の質が大いに向上した ・スクールカウンセラーを活用したいじめ対策委員会や青山特別支援学校からのコーディネーターと連携した特別支援委員会、ケース会議を通して支援を必要とする生徒の情報を管理・共有し、指導・育成に役立てることができた。 <課題> ・産婦人科医の活用、SCとの連携、いじめ対策委員会や特別支援教育推進委員会との情報共有を継続していくことが必要である。 ・健康診断の電子化に向けて、実務的な作業を入力支援員の活用を効率的に進めて電子化を推進していく。 ・基本的生活習慣の一層の定着 ・生徒の心身の健康の増進 ・相談体制の一層の充実と生徒情報の共有 ・欠席の多い生徒へのスクールカウンセラー等を活用したメンタルケアの一層の支援
(4) 特別活動
<成果> ・活動の加入率は、7月、12月の両時点で兼部を含めて110%と、多くの生徒が部活動に熱心に取り組んだ。 ・青山フィルハーモニー管弦楽団は3年連続でヤクルト球団と連携して、神宮球場内でプロ野球公式戦の中で生演奏を行うことができた。また、日本青年館でのオーケストラフェスタにも連続出場を果たすことができた。東京都教育委員会児童等生徒等表彰において、表彰基準1「地道な活動を継続的に言い、他の児童・生徒等の範となる者」の視点で表彰された。 ・体育祭は全校的に実施し、保護者の参観も実現できた。熱中症対応として東京体育館の活用も継続検討となっている。 ・外苑祭は、感染症対策を行ったうえで、保護者や中学3年生とその保護者に抽選で参観してもらうことができただけでなく、全クラス21クラスが演劇に取り組み事故ゼロで終了できた。 ・ラグビー部は、渋谷インターナショナルスクールとの連携交流活動により、本校ラグビー部生徒がインターナショナルスクールの児童・生徒を指導しつつ、一緒にプレーするという活動に継続して取り組んだ。また、令和7年3月16日(日)都立高校選抜に選ばれ、東大阪花園ラグビー場での花園マッチにて東大阪選抜との試合に出場することができた。

・男子バスケットボール部は、進学指導重点校に呼びかけ8年前から実施してきた難関大学との部活動をとおしての交流活動を復活できた。運動部活動と将来への志を育てる指導の融合を図る取り組みとして今後も重視していく。 ・男子バレーボール部は、顧問教諭が国際審判資格を有することから、部活動の一環として、春高バレーやVリーグ公式戦でのラインジャッジを経験することができた。 ・百人一首部が都大会で敢闘賞を受賞した。 ・美術部は2年連続東京都美術館で開催された「中央展示」に出展した。 <課題> ・各部活動の東京都大会等における実績の向上 ・怪我の未然防止策の徹底や事故が起きた際の迅速かつ適切な対応
(5) 地域貢献 <成果> ・都立明治公園のイベントでダンス部と青山フィルハーモニー管弦楽団管弦楽団が演奏した。 ・日本オラクル社と連携協定を締結し3年連続本校の探究学習の支援に当たってもらい、探究学習の充実を図った。また、アデコ、CUC等、企業と連携した探究学習を行うことができた。 ・外苑祭では、三越伊勢丹と連携協定を締結し、古着を演劇衣装として提供していただくことで、SDGsに貢献することができた。 ・地元の特別支援学校との「音楽交流会」については、対面により実施することができた。 ・地元の中学校と中学生の体験授業「理科・社会」の2教科で実施できた。 ・熊野神社の例大祭に本校1・2年生約100名がボランティアで参加した。 ・日本青年館、明治神宮外苑、日本スポーツ振興センター、青山外苑前商店街、神宮前二丁目商店会、日本オラクル社、三越伊勢丹等の地域の諸団体との連携を強化できた。 その他 ・海外派遣研修では事前研修として「能楽堂」、事後研修で東京都生活文化局と連携して生徒の研究内容を深めることができた。 <課題> ・地域の外国大使館と連携したパートナーシップ校等の形態による海外の高等学校との緩やかな推進事業の推進が今後の課題である。
(6) 広報活動 <成果> ・学校説明会、入試問題解説会、放課後の個別説明会等を開催し、広報活動の充実を図った。 ・ホームページやX、YouTube「青高チャンネル」等を活用して、教育活動の特色等を発信した。また、ホームページに月ごとのトピックス(Xで公開したものを月ごとに集約)を掲載し年間をとおした教育活動を紹介することができた。 ・進路室の前及び自習室の入り口にデジタルサイネージを設置できた。 <課題> ・YouTube「青高チャンネル」やXによる情報発信の継続 ・デジタルサイネージの継続的な情報発信をしていく。

3 今年度の主な数値目標

		数値目標	6年度実績
1	難関国立大・国公立医大現役合格者	30人	18人
2	国公立大学医学部現役合格者	5人	6人
3	国公立大学（難関以外）現役合格者	85人	85人
4	難関私立大学(早慶上理)現役合格者	延べ200人	延べ233人
5	私立大学（GMARCH）現役合格者	延べ300人	延べ373人
6	学力検査受検者	400人	381人
7	学校説明会参加者(年3回)	1500人	6287人
8	学校ポータルサイトによる情報発信	219回	450回
9	GTEC1年生平均点（1280点満点）	970点	1006点
10	GTEC2年生平均点（1280点満点）	1024点	1043点
11	ホームページアクセス件数	50万回	45万回
12	X発信回数	600回	388回
13	Xフォロワー数	4600超	5100超